

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 6月 1日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20520121

研究課題名（和文） ジェルジ・リゲティ研究：中東欧音楽史の視点から

研究課題名（英文） György Ligeti as a composer from Eastern Europe

研究代表者 伊東 信宏（ITO NOBUHIRO）

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：20221773

研究成果の概要（和文）：本研究は、20世紀中葉を代表する作曲家の一人、ジェルジ・リゲティを、彼の出自、中東欧という文脈から捉え直そうとするものだった。彼の生地、トゥルナヴェニ（ルーマニア）、および彼が前半生を過ごしたクルージ・ナポカ（ルーマニア）、ブダペスト（ハンガリー）などで、調査を行ない、伝記的事実を確認したほか、文化的なバックグラウンドについても考察を行った。さらに、それらの成果を、ハビトゥス（振る舞い方）という概念を介して彼の作品解釈へと結びつけた。

研究成果の概要（英文）：This project aimed at acquiring a new perspective to the compositions by György Ligeti, reexamining his background from Hungarian speaking Jewish family in Transilvania. Researches in Tarnaveni (Romania), Cluj- napoca (Romania) and Budapest (Hungary) were committed and the cultural background of his younger days was examined. Based on this new information, some analysis on his compositions was published.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学／芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：リゲティ、ルーマニア、ハンガリー、ル・グラン・マカーブル、中東欧音楽

## 1. 研究開始当初の背景

ヨーロッパにおいては近年まで、そして日本においては今でも、ジェルジ・リゲティ

（1923-2006年）は、戦後の西欧前衛音楽作曲家の一人と見なされてきた。それも故のないことではないが、ただここでは彼の特異な

経歴（すなわちハンガリー語を母語とする、ルーマニア人として、ユダヤ系の家庭に生まれ、ナチスによって親族を殺され、ハンガリー動乱に際して西側に亡命した、という精神的文化的バックグラウンド）が無視されており、彼の音楽に対する理解も表面的なものにならざるを得なかった。

また日本においては特に、リゲティの情報は英、独、仏語経由でもたらされたものが多く、彼が西欧の対して抱いていた微妙な違和感や距離もほとんど見過ごされてきた。しかしこのような「中央」や「伝統」に対する距離こそ、リゲティの創作の核にある問題である、と考えられる。

## 2. 研究の目的

上記のような観点から、具体的には次の各項目を解明することを目的とする。

(1) 幼少期から学生時代にかけてのリゲティの音楽的環境を明らかにし、そこでの民俗音楽の役割などを検討すること。

(2) 第二次大戦後の「前衛音楽」のサークルにおけるリゲティの位置を、ブレーズやシュトックハウゼンを参照軸としながら明確にすること。

(3) リゲティ自身の「ヨーロッパ音楽」理解を彼の著作や音楽作品の分析によって明らかにすること。

そして、最終的にこれらを総合する論点として

(4) リゲティ唯一のオペラ《ル・グラン・マカーブル》を中心とする彼の諸作品を、中東欧音楽の視点から解釈することで、これまでとは次元の異なる作品理解を導く、というのが本課題の目的である。

## 3. 研究の方法

研究方法としては、主に現地におけるフィールド調査と文献調査、そして楽曲の詳細な分析を組み合わせる。

(1) 現地調査については、生地トゥルナヴェニ（ルーマニア）、クルージュナポカ（ルーマニア）、ブダペスト（ハンガリー）などで記録の調査や聞き取り調査などを行なった。

(2) 文献調査については、リゲティによる著作集、Ligeti, György, *Gesammelte Schriften*, ed. Monika Lichtenfeld, Basel: Paul Sacher Foundation, 2003.、あるいは近年の重要な著作、C. Floros, *György Ligeti: Jenseits von Avangarde und Postmoderne* (1996)、R. Steinitz, *György Ligeti: Music of the Imagination* (2003)、およびこれらに関連する論文を慎重に読み解いた。

(3) 楽曲分析については、彼の唯一のオペラ「ル・グラン・マカーブル」の細部の検討、あるいは初期の代表作の一つ「アパリツィオン」の分析などを行なった。

## 4. 研究成果

核となる成果は、下記の雑誌論文①「中欧の作曲家としてのリゲティ：「規範」とのこじれた関係」である。これは、将来まとめる予定のリゲティに関するモノグラフの中心になる論考である。ここでは、本研究によって得られた様々な知見を、「ハビトゥス（振る舞い方）」という概念によって、楽曲分析に結びつけ、それが有効に機能することが論じられている。このアイディアは、本研究の中心的成果である。

また上記リゲティによる著作集のうち論文 “Konvention und Abweichung: Die »Dissonanz« in Mozarts Streichquartett C-dur KV 465 “ (同書 S. 271-278.) について

は、試訳を作成した。これら2点を合わせて、研究成果報告書としてまとめ、年度末に刊行した。またリゲティに関する論考を含む著作『中東欧音楽の回路』（岩波書店）を刊行したが、これはサントリー学芸賞、木村重信民族芸術学会賞を受賞し、評価を得た。

これらも含めて下記のような論考、発表を行い、リゲティの音楽、および中東欧音楽の文脈について、研究成果を公表した。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計9件)

- ① 伊東信宏 「中欧の作曲家としてのリゲティ：「規範」とのこじれた関係」(『思想』2012年4月号、岩波書店、pp. 262-277)
- ② 伊東信宏 「トゥルナヴェニ：リゲティの生家」(日本室内楽振興財団機関誌『奏』34, 2010年10月、pp. 13-14)
- ③ 伊東信宏 「バルトーク《44の二重奏曲》の成立：ドフラインとの書簡を中心に」(『大阪大学大学院文学研究科紀要』第50巻、2010年3月、pp. 69-89)
- ④ 伊東信宏 「バルトーク《44の二重奏曲》における民俗音楽素材の選択」(『阪大音楽学報』第8巻、2010年3月、pp. 207-218)
- ⑤ 伊東信宏 「バルトークによる民俗音楽調査・研究・編曲」(博士学位請求論文、2009年、全243頁)

[学会発表] (計11件)

- ① Nobuhiro Ito, “Slovakian folk song arrangements by Bartók and their relationship to Stravinsky’s *Les noces*”, at *International*

*Musicological Colloquium, “Scholarly Research and Performance Practice in Bartok Studies: The Importance of the Dialogue”*, 2011. 7. 17 at Szombathely, Hungary.

- ② 伊東信宏 「20世紀ハンガリーのピアノ音楽の系譜：バルトーク／リゲティ+クルターク」(特別講義)、京都市立芸術大学、2011. 3. 8
- ③ 伊東信宏 「楽器と音楽の相互作用：音楽史の立場から」(招待講演) 日本音響学会秋期研究発表会、関西大学、2010. 9. 14
- ④ 伊東信宏 「ブルガリアの『チャルガ』＝『ポップフォーク』におけるロマの位置」、人間文化研究機構連携研究・平成20年度国際シンポジウム「パフォーマンスと文化」、国立歴史民俗博物館、2009. 3. 28

[図書] (計3件)

- ① 細川周平編『民謡からみた世界音楽：うたの地脈』、ミネルヴァ書房、2012年3月、pp. 319-334に伊東信宏「バルトーク《子供のために》をめぐって」を所収。
- ② 関府寺司、伊東信宏、三谷研爾編、叢書「コンフリクトの人文学」4『コンフリクトの中の芸術と表現』大阪大学出版会、2012年3月、pp. 149-163に「中東欧のなかの作曲家たち：3つのスケッチ」を所収。
- ③ 伊東信宏 『中東欧音楽の回路：ロマ・クレズマー・20世紀の前衛』、岩波書店、2009年3月、全217頁、第8章に「リゲティが見入る地図」を含む。

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

伊東 信宏 (ITO NOBUHIRO)  
大阪大学・文学研究科・教授  
研究者番号：20221773

(2) 研究分担者

ナシ

(3) 連携研究者

ナシ